

次への備え

八千代市立みどりが丘小学校養護教諭 いしい さとこ 石井 智子



1 はじめに

本校は、平成22年に市内23校目の小学校として開校した。児童数343名、12学級のスタートだったが、近年、学区内の宅地造成が進み、現在は792名、27学級の大規模校へと変容した。あと数年は、児童数増加が見込まれる、伸び盛りの若い学校である。

2 本校の感染症予防対策のあゆみ

(1)見えない相手に立ち向かう

令和2年3月。「新型コロナウイルス」そのものがはっきり分からず、不安ばかりが先立ち、対策についても試行錯誤の連続であった。当時、葛南管内養護教諭連絡協議会顧問の立場もあり、管内5市の養護教諭と情報共有はもちろん、様々な関係各所から情報収集をしていた。その中でいち早く取り入れたのは、休校の中、挙行了した卒業式の「パイプ椅子消毒」である。これは管内のある薬剤師会から資料提供を受けて実施したものだ。当時、「消毒薬」を噴霧する「スプレー」さえも徐々に品薄になっていたが、本校では幸い「配膳台用スプレー」が職員1人に1本ずつ準備してあった。何か新しいことを始める際、課題になるのが「用具」である。それもコロナ対策で「共有」は避け、「1人1用具」が大前提となる。養護教諭として、子供たちの安心安全はもちろん、職員の安全にも気を配らなければならない。本校は職員数も多いが、これまでの様々な備えが功を奏した形となった。この取組は、その後の入れ替え制で行った入

学式、就学時健康診断でも実施し、今年度へと継続している。



全職員による、パイプ椅子消毒

(2)子供たちがいない期間を経て

新年度になって2か月の休校期間は、今後どう感染症予防を講じるか、その具体的対策に時間を割いた。私が初めに提案したのは、学校再開後、全校児童に「新しい感染症に対する正しい知識」を保健指導として行うことだった。これには、岡山大学作成の「新型コロナウイルスについて、いっしょに考えよう」を使用した。この教材を選んだ大きな理由は、「感染した人を差別しない」「医療従事者へ感謝の気持ちをもつ」など差別、偏見は感染症収束に何も役に立たない、間違った行動である、ということが紙芝居形式でしっかりとまとめられているところだ。岡山大学SDGs推進委員会が中心となっており、本校もノーベルスクールを教育理念に、児童会活動でもSDGs活動に力を入れ始めていたので、容易に取り組めた。

指導に当たっては、養護教諭が資料の準備や、掲示物の作成を行い、学級担任が指導をした。ICT機器の充実を推進している本市で

は、各教室に電子黒板が備えられており、学校再開2日目には全ての学級がこの保健指導を完了した。

3 保健活動の推進

(1)日常の健康観察と保健室運営

本校の朝は「職員が昇降口で児童を迎える」ことから始まる。800人近い児童数に対して、昇降口が1か所ということもあり、「3つの密」を避けるために行っている対策の一つである。

毎朝の体温測定、健康観察表の提出も日常になった。今でこそほとんどの子供たちは、1日を元気に過ごし帰路に就くが、やはり、学校再開直後は、発熱はないが体調不良を訴える子供が増えた。もちろん保健室はコロナ禍でも、外科的な来室がある。双方の子供たち、加えて迎えに来ていただく保護者への安心材料として、「来室のゾーン分け」を行った。昨年度は①外科的な来室②発熱有りの来室③発熱無しの来室の三つ。現在は①外科的②体調不良の二つになっている。これは保健室併設の相談室を利用することで可能になった。

(2)感染症予防対策をしながらの保健指導

日頃から歯科指導、栄養指導等、様々な保健指導に学級担任や外部機関と連携し取り組んでいたが、昨年度は①養護教諭が長時間保健室を空けること②外部講師を招聘すること③班ごとの活動や実験を行うことなどが難しかった（活動そのものが難しい時期もあった）。そうした状況の中で、どう工夫したら実施できるか、これまで以上に学級担任と意見交換を行い、官公庁や各種企業から無料提供される教材活用を試み、1人1教材、1資料を準備した。約3か月の休校を経験した子供たちは、「学びたい」という意欲を見せ、今年度も学年を変えて実施している。

(3)健康診断の推進

「3つの密」を避けるため、検診会場の準備と運営に心を砕いた。本市はGIGAスクール構想の下、タブレット端末の整備もなされ、ICTルームでなくてもICT機器が使える。そこで、健康診断期間はICTルームを検診会場とした。本市の感染予防対策の指針となる「八千代スタイル」に沿って、①「足型」を用いて距離を取る（声を出して指示せずとも子供たちが見て分かるように）②丸椅子を多用する（直接床に腰を下ろさないように）とした。毎回の検診で同じ足型に立ち、同じ椅子に座るので、低学年でも自分の位置を早くに覚え、整列の時短にもなった。今年度もICTルームで健康診断を行っている。



足型、丸椅子を活用した健康診断

4 おわりに一次への備えー

今、このコロナ禍で思うことは、これまで養護教諭が保健室から発信し、大切に実践指導してきた少し努力すれば誰でも簡単に出来ること、手洗い、うがい、換気、アレルギー対応、清掃活動、給食の配膳方法等、大切なのにある意味後回しにされてきたことへの見直し、再確認につながっている実は良い機会なのではないか、ピンチをチャンスに生かせる時なのではないか、ということである。誰かに見られているからではなく、今、目の前にいる子供たちが、閉塞感漂う時代の中でも健やかに成長できるように、明日も本校職員と共に力を注いでいきたい。